平成１０年５月１３日
東京都病害虫防除所

平成１０年度 病害虫発生予察注意報第２号

病害虫名：**トマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）による病害**
対象作物：**野菜・花き類**

１．注意報の内容

(1)対象地域　**都下全域**
(2)作 物 名　**野菜・花き類**

２．注意報発令の根拠

(1)トマト黄化えそウイルス（ＴＳＷＶ）は、すでに平成9年10月に小平市のダリアから検出されており、都下における本ウイルスの分布が確認されている。
(2)その後の調査により、新たに北多摩の一部地域において、平成9年11月にシネラリア、平成10年3月には育苗中のトマト、ピーマン、トウガラシ、ナス、マリーゴールドで相次いでＴＳＷＶの感染が確認され、本ウイルスの被害が拡大していることが判明した（平成10年度病害虫発生予察特殊報第１号参照）。
(3)ＴＳＷＶを媒介するアザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマ等）は都下全域に広く分布しており、特にミカンキイロアザミウマの発生分布が拡大している。これらアザミウマ類は、今後、夏季～秋季かけて活動が活発化するため、ＴＳＷＶによる野菜・花き類での被害およびその発生分布の拡大が懸念される。

以上から、今後、本ウイルスによる病害の発生及び拡大に注意する必要がある。

３．防除対策

(1)アザミウマ類の防除を徹底する。アザミウマ類は種によって薬剤感受性が異なるので、防除の際には発生している種類を確認する。
(2)施設では、開口部を寒冷紗（目合い1㎜以下のもの）で遮断し、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
(3)圃場周辺ではＴＳＷＶの伝染源となる植物を植栽しない（表１参考）。また、本ウイルスは広範な雑草に感染しているので、圃場内外の除草を徹底する。

(4)発病株はただちに抜き取り、焼却処分する。

(5)本ウイルスは感染していても、植物の種類や環境条件等によっては、外見上健全であったり、明瞭な病徴を示さないことがある。この場合、本圃への定植後や出荷流通後に発症することがあるので、育苗時の防除を徹底するとともに、外部から施設や圃場へ植物を持ち込む際には、十分な観察を行い、特にアザミウマ類の寄生および吸汁痕の有無に注意する。

＊なお、アザミウマ類の種類が不明な場合や、ＴＳＷＶに感染している疑いがある場合には、病害虫防除所、各農業改良普及センターへ連絡して下さい。

表１　ＴＳＷＶによる病害および感染が確認されている主要農作物*

科　名	農　作　物　名（病　名）
アカザ科	ホウレンソウ
ウリ科	キュウリ（ウイルス病）、スイカ（灰白色斑紋病）
キク科	レタス（黄化えそ病）、キク（えそ病）、ガーベラ（えそ輪紋病） ダリア（輪紋病）、キンセンカ、ヒャクニチソウ
マメ科	ラッカセイ（ウイルス病）、ソラマメ、ササゲ、アズキ
ゴマ科	ゴマ
ナス科	トマト（黄化えそ病）、トウガラシ・ピーマン（黄化えそ病） ナス、ペチュニア、タバコ（黄化えそ病）
ユリ科	ネギ（ウイルス病）
リンドウ科	トルコギキョウ

*日本有用植物病名目録および各県の病害虫発生予察特殊報から抜粋

表２　ミカンキイロアザミウマに対する登録薬剤

対象作物	薬　剤　名	希釈濃度	使用基準
ピーマン	アーデント水和剤	1000倍	収穫前日/2回
	モスピラン水溶剤	4000倍	収穫前日/2回
ナ　　ス	アーデント水和剤	1000倍	収穫前日/4回
	マラバッサ乳剤	1500倍	収穫3日前/3回
ガーベラ	エンセダン乳剤	1000倍	－/6回
	オルトラン水和剤	1000倍	発生初期/5回
	オルトラン粒剤	2g/株	発生初期/5回
	カスケード乳剤	2000倍	－/3回
	トクチオン乳剤	1000倍	発生初期/5回
	パダンＳＧ水溶剤	1500倍	発生初期/4回
	モスピラン水溶剤	2000倍	発生初期/5回
キ　　ク	アーデント水和剤	1000倍	発生初期/5回
	エンセダン乳剤	1000倍	－/6回
	オルトラン水和剤	1000倍	発生初期/5回
	オンコル粒剤５	9kg/10a	生育期/1回
	カスケード乳剤	2000倍	－/3回
	コテツフロアブル	2000倍	発生初期/2回
	トクチオン乳剤	1000倍	発生初期/5回
	モスピラン水溶剤	2000倍	発生初期/5回

＊上記以外には、イチゴ、キュウリ、シクラメン、バラ、ミカン、カンキツの各作物でミカンキイロアザミウマに対して薬剤が登録されている。